

鳥取県立美術館の運営状況等について

令和8年2月4日
鳥取県地域社会振興部美術館（併任：鳥取県教育委員会博物館）

昨年3月30日の開館後、半年を待たず利用者20万人を達成(9月12日)するなど、多くの方に県立美術館を利用いただいています。

賛否両論で注目を集めたアンディ・ウォーホルの作品《ブリロ・ボックス》のように、従来の常識や価値観にとらわれない自由な発想に触れられる現代アート作品をはじめ、国内外の優れた作品の展示等により、引き続き多彩で良質な美術に親しんでいただく機会の創出に取り組んでいきます。

また、「アートを通じた学び」の場の提供や誰もが鑑賞を楽しめる環境づくりを進めており、特色のひとつである「ミュージアム・スタート・バス」プログラムは110校(予定)が来館しています。

1 利用者数等(令和7年3月30日～令和8年1月12日)

利用者数	内 訳					
	企画展	コレクション展のみ	プログラム	バス招待	貸館の催し	立ち寄り
284,561人	102,959人	39,632人	26,568人	4,243人	70,409人	40,750人
展覧会観覧者計 142,591人						

- [企画展] 開館記念展アート・オブ・ザ・リアル (3/30-6/15) 50,810人
水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 (7/19-8/31) 34,920人
The 花鳥画ー日本美術といきものたち (10/11-11/24) 17,237人
- [コレクション展] 小松宏誠展 光と影のモビール けしきと歌 (9/20-11/9) 20,759人
鳥取県アートミュージアム連携協議会共同企画展 もっと推したい (11/26-1/12) 4,350人 ※12/23 現在 等
- [プログラム] 学芸員や作家によるギャラリートーク、ワークショップ、ひろまでアート等
- [バス招待] ミュージアム・スタート・バス(県内小学4年生を招待) 来館101校 ※12/23 現在
- [貸館催し] 砂丘社1920～2025～展 (4/1-13) 5,975人
鳥取県伝統工品半世紀記念展 (4/18-5/10) 13,020人
創作『因伯との会』第16回グループ作品展 (8/12-16) 2,474人
近畿高等学校総合文化祭鳥取大会 (11/15-23) 3,343人
鳥取県立美術館開館記念・全国代表書作家展 (12/13-28) 2,189人
※ユニークベニューの活用例(歴史的建造物や文化施設等の建物や空間で特別感を演出)
・ウェディングセレモニー(模擬) (9/19) ・演劇公演 (10/4・5の閉館後)
・映画上映 (11/1・8の閉館後) ・音楽ライブ (12/14の閉館後) 等
- [立ち寄り] 倉吉打吹まつり (8/2(土)イベント来場者 約2万4千人)
…県立美術館の開館を祝うとともに、相乗効果で地域を盛り上げるため、例年の会場(倉吉銀座通り～打吹公園通り)から場所を変えて、大御堂廃寺跡歴史公園で開催。
やきとり JAPAN フェス (9/27(土)・28(日)イベント来場者 約9万5千人)
…北海道から沖縄まで全国の焼き鳥の名店が集結。県立美術館周辺はかつてない人出で賑わいを見せ、やきとり文化の発信とともに地元の活性化に大きく貢献。



「いっしょにみてみて水曜日」



ボランティア(約300名)による読み聞かせ・建築ガイド



友の会(会員400名超) 特典視察ツアー

2 ブリロ・アンケートの回答状況等(令和7年3月30日～令和8年1月12日)

回答数	①今後も保有・展示を続けてほしい	②もっと説明を充実させて議論が巻き起こるようにしてほしい	③疑問を感じたので保有を続けるかどうか検討してほしい	④その他・無回答
5,643枚	1,997枚 35.4%	1,217枚 21.6%	937枚 16.6%	1,492枚 26.4%

①②の計 57.0%

3 アート・ラーニング・ラボ (A.L.L. 通称オール) の取組例

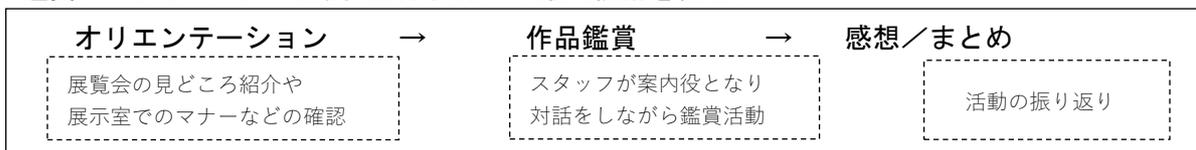
県立美術館では、子どもたちをはじめすべての人に、アートを身近に感じて楽しんでいただくことを目指し、「アートを通じた学び」の研究室「アート・ラーニング・ラボ(A.L.L.)」を設置し、様々なプログラムを提供しています。



(1) ミュージアム・スタート・バス (小学4年生バス招待事業)

県内すべての小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部の4年生を招待し、学芸課スタッフやボランティアなどファシリテーターが案内役となり対話をしながら作品鑑賞を行います。この活動では、子どもたちが本物に触れ、自分の目でしっかり見て、発見したことや感じたことを素直に言葉にすることで、多様な考えに気づき、互いに認め合う心を育む等の効果が期待されています。

鑑賞プログラム (100分間 ※お手洗いや館内移動を含む)



[令和7年度の取組状況] ※R7.12.23現在

	来館済	来館予定	合計(予定)
児童数	3,889人	442人	4,331人
学校数	101校	9校	110校



小松宏誠展でお気に入りの作品をスケッチする小学生



ファシリテーター研修を重ねたボランティアによる対話鑑賞

[令和8年度の申込状況] ※R7.12.23現在
申込み59校(うち、前期42校・後期17校)

(2) 朝鑑賞シンポジウム

今年3回目となる鳥取県発の朝鑑賞シンポジウムでは、週に1回、朝10分の作品鑑賞を行う「朝鑑賞」が学校に何をもちこたらし、児童・生徒や教師にどのような変化を生むのかについて、理論と実践例を紹介しました。今後、記録動画を公開する予定です。

- 日時 令和8年1月11日(日) 午前10時～午後4時30分
- 会場 鳥取県立美術館 ホール
- 内容 実践発表(7件)、ワークショップ(4名のファシリテーションを体験)、パネルディスカッション(武蔵野美術大学 三澤一実教授ほか4名のパネリスト)

(3) 休館日を活用した特別鑑賞会の試行

美術館にアクセスしづらい方々を対象とした特別鑑賞会試行の状況や、中学3年生のちいわか総選挙で「誰もが安心して楽しめる美術館」の得票率が高かった(46.1%)ことを踏まえ、今後、障がいがある方のための特別鑑賞会の定期実施や、視覚以外で鑑賞する触図などの導入・充実を進めていきます。

- 教育支援センター「ハートフルスペース」利用者(6/2) 33人
- 障がい者施設利用者(9/22) 29人
- 高齢者等(11/17) 8人

秋の企画展「The 花鳥画」では、高齢者向けに、展示室内により多くの椅子を設けたり、細かい筆遣いが見えるよう単眼鏡(片目で覗く小型の望遠鏡)を貸出して鑑賞していただいた。



(4) アウトリーチ事業

美術館の学芸スタッフが学校や地域の様々な施設に出かけて、ワークショップやレクチャーなどを行っています。当面予定しているアウトリーチ事業は次のとおりです。

- 2月4日(水) 鳥取市立末恒小学校3年生19名 ワークショップ
- 2月19日(水) 県立鳥取聾学校小学部6名 対話鑑賞(作品パネル使用)等

4 今後の主な企画展・コレクション展

企画展 CONNEXIONS コネクションズ -接続するアーティストたち (2月7日～3月22日 企画展示室) [概要] 「未来をつくる美術館」として開館した当館は、新しい価値を育み、文化をともに育てていく場として、同時代の表現を紹介することにも力を注いでいます。本展では、作品を通じて文化や社会の断絶を越え、異なる領域を架橋する国内外のアーティスト7組を招聘します。
コレクション展 現代の彫刻—新しい表現を創造するアーティストたち 01/近世・近代の陶芸 (開催中～2月11日まで コレクションギャラリー3) [概要] 当館が所蔵する現代美術の立体作品を2期に渡って展覧する「現代の彫刻」。 第1期では、1954年以降隔年で開催されてきた日本国際美術展と現代日本美術展を舞台として作品を発表した彫刻家を軸としながら、全国的な野外彫刻の展開や県内の前衛的な美術運動など、アンディ・ウォーホル《ブリロ・ボックス》を含め、同時代の潮流を反映する作品を紹介します。
コレクション展 垣田堅二郎コレクション②/写真コレクションより：かたち (開催中～2月11日まで コレクションギャラリー4) [関連企画] 1月24日・25日 ギャラリートーク 深澤幸雄《訪ねて来る人》
コレクション展 新年だヨ！全午集合 (開催中～2月11日まで コレクションギャラリー5) [概要] 令和8年の午年を記念して、馬をモチーフとした美術を展示します。躍動感あふれる馬の絵を得意とした橋本秀峰(1796-1883)の「牛馬図屏風」をはじめ、時代や様式を超えた多彩な馬の表現を紹介します。



鳥取県立博物館と共催で開催する企画展 ※会場は鳥取県立博物館

江戸絵画からブリロ・ボックスまで (2月28日～3月22日 鳥取県立博物館特別展示室) [概要] 県東部で美術作品鑑賞機会の充実を図るため、県立博物館を会場に、選りすぐった鳥取県の美術コレクションによる企画展を開催します。 江戸時代の優れた画家や近代以降の民藝運動に関係した様々な工芸家の作品、鳥取県を代表する前田寛治や伊谷賢蔵、辻晉堂、塩谷定好、植田正治などの作品のほか、近年収集したアンディ・ウォーホルの《ブリロ・ボックス》、ジョルジュ・ルオーや日本の現代美術をリードする森村泰昌などの作品も紹介し、拡大していく鳥取県の美術コレクションの魅力に触れることのできる機会を提供します。 [関連企画] 3月7日 ギャラリートーク 2月28日、3月14日、21日 学芸員とめぐるギャラリーツアー

5 令和8年度(2年目)の企画展(予定)

ポップ・アート時代を変えた4人” POP ART:THE FAB 4! & 4 SPECIAL GUESTS” (4月11日～6月14日) [概要] 時代を変えたリキテンスティン、ウォーホル、ラウシェンバーク、ジョーンズの版画作品が勢ぞろい。 《ブリロ・ボックス》を様々な文脈で紹介する他、ウォーホルの代表的な版画《マリリン》や《花》も展示します。
谷口ジロー展(仮称) (7月11日～8月30日) [概要] 動物、自然、文芸、SF、散歩、食、家族など様々なテーマの作品の原画・複製画が150～200点程度大集合。 「絵に語らせる」丁寧な筆致と、深く緻密な人間描写など、谷口ジローの表現力の秘密を紐解きます。
生誕130年 前田寛治 —ポエジイとレアリスム (10月10日～12月13日) [概要] 鳥取県が誇る洋画家・前田寛治の生誕130年を記念し、前田寛治の代表作を含む作品約80点を展示。 前田が仲間とともに設立した「一九三〇年協会」の創立100年も併せて記念し、創立メンバーである里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三、木下孝則をはじめとする同時代の洋画壇の寵児たちを一堂に紹介します。
ゴジラ生誕70周年記念 GODZILLA —THE ART EXHIBITION (2月11日～4月11日) [概要] 映画の枠を超えた多様なアートによってゴジラを表現する展覧会。「ゴジラとは、何か。」という問いに対する、国内外の第一線で活躍するアーティストたちによる最新の表現を体験できます。 ゴジラの造形美や映像の魅力を、巨大なジオラマや当時の資料などの展示により併せて紹介します。

6 鳥取県立美術館開館1周年記念イベント

開館1年前カウントダウンイベントとして開催し、このたび三和段ボール工業株式会社の協賛を得て再び開催します。「どんどこ！巨大紙相撲」は美術家ユニット KOSUGE1-16 によるアートプロジェクトで、ダンボール力士を作って戦わせるのみならず、呼出や行司、実況解説、谷町、部屋制度を通して多くの人びとが関わり、一緒になって場をつくる参加型のアートです。

- 裏方や谷町向け説明会
- 巡業(力士制作ワークショップ)
- 本場所(チーム対抗巨大紙相撲)